

令和 8 年 6 月 22 日

長野県知事 阿部 守一 様

令和 7 年度長野県産業廃棄物 3 R 実践協定 実施結果報告書

下記のとおり、産業廃棄物 3 R 実践計画の実施結果報告書を提出します。

協定期間	令和6年度から 令和7年度	
会 社 名	株式会社 竹原重建	
住 所	〒386-1102 長野県上田市上田原1195番地1	
代 表 者 名	代表取締役 竹原 健二	
区 分	○中間処理 ・ ○最終処分	
許 可 番 号	2041043323	
処 理 施 設 所 在 地 (複数ある場合はそれぞれ記入)	施設名	所 在 地
	原峠中間処理場	長野県上田市上田原1957番1他
	殿城最終処分場	長野県上田市殿城宿組877番1他
担 当 部 署	業務部	
担 当 者 名	竹原 英典	
連 絡 先	T E L	0268-24-6974
	F A X	0268-24-6881
	電子メールアドレス	hide@takehara-net.co.jp

1 目標達成状況

* 当年度目標値は、当年度実践計画書への記載数字を記入する。

* 当年度実績値は、計画期間における目標値に対する実績値を記入する。

(1) リサイクル率実績 (中間処理の場合) (%)

廃棄物の種類	当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
	令和 7 年度 目標値	令和 7 年度 実績値	令和 6 年度 実績値	令和 5 年度 実績値
木くず	95.0	98.3	93.0	96.2
紙くず	10.0	0.0	0.0	0.0
廃プラスチック	40.0	69.3	11.7	57.3
がれき類	99.2	98.4	99.1	98.5
石膏ボード	100.0	100.0	100.0	100.0
金属くず	100.0	100.0	100.0	100.0
ガラス陶磁器くず	20.0	37.8	12.5	10.3

(2) 再生利用実績 (中間処理業者の場合)

(t)

廃棄物の種類	当年度目標値 及び実績値		過年度実績値		用 途
	令和7年度 目標値	令和7年度 実績値	令和6年度 実績値	令和5年度 実績値	
木くず	600.0	712.31	305.56	769.91	バイオマス燃料
紙くず	10.0	0.00	0.00	0.00	再生紙
廃プラスチック	100.0	2.63	18.98	188.24	補助燃料
がれき類	8,000.0	6,948.09	7,613.25	4,094.30	再生砕石
石膏ボード	100.0	79.25	34.27	51.73	セメント原料
金属くず	200.0	220.3	162.72	182.12	金属原料
ガラス陶磁器くず	5.0	11.15	1.28	1.03	補助燃料

(3) 最終処分量実績

(t)

廃棄物の種類	当年度目標値及び実績値		過年度実績値	
	令和7年度 目標値	令和7年度 実績値	令和6年度 実績値	令和5年度 実績値
廃プラスチック	120.0	37.08	143.5	197.05
ガラス陶磁器くず	10.0	20.0	11.0	10.00
燃え殻	6.5	7.25	6.90	8.73
がれき類	50.0	119.27	62.79	62.47
石膏ボード	0.0	0.00	0.00	0.00

2 産業廃棄物の種類、排出量、処理量、処理方法、排出ガス、排出水等に関する情報公開実績

品目毎にリサイクル率を明記した書類の公開を本社にて実施している。また、焼却実績及び排ガス、埋立量及び排出水に関する情報について閲覧できるようにしている。ホームページでの公開の準備も進めている。
--

3 産業廃棄物処理施設 (中間処理施設等・最終処分場) の地域への公開実績

施設の名称	施設公開状況			
	日 時	対象者	人数	内 容
原峠中間処理場	4月17日	市内居住者	12人	廃棄物処理についての勉強会
	11月5日	地元住民	8人	施設の稼働状況、廃棄物の選別作業
殿城最終処分場	3月29日	地元自治会	6人	施設の維持管理状況の確認
	10月18日	地元自治会	6人	施設の維持管理状況の確認

4 中間処理・最終処分を委託した処理業者（施設）の現地確認実績（中間処理業者）

区 分	廃棄物の種類	現地確認結果（確認回数、確認日、確認状況等）
中間処理場	廃プラスチック	持込の都度、運搬担当者が施設の稼働及び処理状況を確認
	石膏ボード	年に複数回、管理責任者が施設及び今後の処理計画等の確認を実施
最終処分場		
	廃プラスチック	持込の都度、運搬担当者が施設の稼働及び処理状況を確認
	ガラス陶磁器	年に複数回、管理責任者が施設及び今後の処理計画等の確認を実施
	石膏ボード	同 上
	燃え殻	

5 従業員教育（研修）実績

実施月日	対象者	実施内容
毎月の社内講習会	全従業員	排出段階における選別による処理の効率化を図り、再生利用量の増加に繋げる等
原峠中間処理場での 毎月のミーティング	処理業務従事者	廃プラスチック、木くずの処理の現状及び他社の最終処分場の現状と今後の展望他

6 排出事業者への協力要請実績

廃棄物の適正な処理を行う為に、フローシートに沿った処理を行えるように分別の徹底を依頼している。特に最終処分場の埋立容量が逼迫しつつある現状を説明し、廃プラスチックやガラス陶磁器くずのリサイクル率を向上させられるよう、排出前の清掃・洗浄や徹底した分別の協力を依頼した。

7 リサイクル技術向上に向けた取組み実績

廃棄物の混合での持込、受入を原則的に禁止し、分別が確実に行われている廃棄物の受入量を増やし、リサイクル率の向上を図る取り組みを実施している。

汚れの付着した廃棄物の持込前の洗浄を徹底してもらい、汚れの付着したままの廃棄物は持ち帰ってもらい綺麗に洗浄等をしてもらったうえで再度持込をしてもらえるように取り組んでいる。

8 不法投棄・不適正処理を発見した場合の協力実績

中間処理場付近の山林に不法投棄が行われていないかのパトロールを実施し、2ヶ月に1回の頻度で清掃活動を行っている。不法投棄された物の処理依頼があれば適切な対応を取れる体制を常に整えている。

9 その他独自に取り組んだ事項についての実績

代替素材への転換※1、環境認証制度※2の取得、電子マニフェスト（公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター）の導入等を含む。

ISO14001の認証を引き続き、更新維持し、日々の業務活動における環境負荷の低減に役立っている。長野県SDGs推進企業制度も活用し、リサイクル率の更なる向上を目指す取り組みも引き続き行っている。

電子マニフェストも積極的に活用するように心掛けている。

※1 化石燃料由来プラスチック製品等からバイオマスプラスチックなど環境負荷の低い素材や製品へ転換していくこと

※2 環境 ISO 14001、エコアクション 21 等